

2020年3月期 第1四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2019年8月8日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

富士フイルムホールディングス株式会社 2020年3月期 第1四半期決算について、説明させていただきます。

2020年3月期 第1四半期(3ヶ月)決算のポイント

営業利益は前年比増益を確保 為替影響を除くと+9.9%の増益 計画に対して順調に進捗	
事業別 業績 (前年比)	<p>売上</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体では、イメージングやドキュメントの欧米向け輸出の減少などにより減収となるも、事業別では医療システム事業、バイオCDMO事業、再生医療事業がけん引し、ヘルスケアが伸長 <p>営業利益</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 医療システム事業、バイオCDMO事業の増収などによりヘルスケアが増益 ✓ ドキュメントは、収益性の改善や構造改革効果により増益 ✓ イメージングとマテリアルズは減収により減益
特記 事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 500億円の自己株式取得を決定(8月8日)。中期経営計画通り、3年間で合計2,000億円の自己株式取得を実施 ✓ 米バイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社を連結子会社化(8月1日)

2020年3月期 第1四半期決算について、ポイントを説明します。

2020年3月期 第1四半期の業績は

営業利益が前年比で増益を確保。為替影響を除くと+9.9%の増益となりました。

計画に対して、順調に進捗しています。

売上は、全体ではイメージングやドキュメントの欧米向け輸出の減少により減収となりましたが、事業別では医療システム事業、バイオCDMO事業、再生医療がけん引し、ヘルスケアが伸長しました。営業利益は、イメージングとマテリアルズは減益となりましたが、ヘルスケアは増益、収益性の改善や構造改革効果によりドキュメントも増益となりました。

尚、本日開催された取締役会で、500億円の自己株式取得を決議致しました。中期経営計画通り、3年間で合計2,000億円の自己株式取得を実施します。

また、8月1日にバイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社の連結子会社化が完了しました。

2020年3月期 第1四半期 業績 (2019年4月～2019年6月)

(単位：億円)

	1Q				
	2019年3月期	2020年3月期	対2019年3月期	為替影響	為替影響除く
売上高	5,649 100.0%	5,353 100.0%	-296 -5.2%	-72	-224 -4.0%
営業利益	369 6.5%	371 6.9%	2 +0.7%	-34	36 +9.9%
税金等調整前 四半期純利益	458 8.1%	264 4.9%	-194 -42.4%	-68	-126 -27.6%
当社株主帰属 四半期純利益	283 5.0%	147 2.7%	-136 -48.2%	-47	-89 -31.7%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	65.83円	35.82円	-30.01円		
為替 : 米ドル	109円	110円	1円安		
為替 : ユーロ	130円	123円	7円高		
				<その他増減要因 (対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響：+11億円	

2020年3月期第1四半期の業績は、

売上高は、前年比5.2%減の5,353億円、

営業利益は、前年比で増益確保の371億円となりました。為替影響を除くと+9.9%の増益となります。

税金等調整前四半期純利益は、持分証券の評価損や為替差損の計上など、営業外損益が対前年で約200億円減益となったことにより、前年比42.4%減の264億円、

当社株主帰属四半期純利益は、前年比48.2%減の147億円となりました。

セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	1Q		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2019年 3月期	2020年 3月期			
イメージング	879	746	-133 (-15.1%)	-17	-116 (-13.2%)
ヘルスケア	1,018	1,041	23 (+2.2%)	-16	39 (+3.8%)
ヘルスケア&マテリアルズ	2,359	2,276	-83 (-3.5%)	-27	-56 (-2.4%)
ドキュメント	2,411	2,331	-80 (-3.3%)	-28	-52 (-2.2%)
合計	5,649	5,353	-296 (-5.2%)	-72	-224 (-4.0%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	1Q		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2019年 3月期	2020年 3月期			
イメージング	122	45	-77 (-63.2%)	-9	-68 (-55.8%)
ヘルスケア	8	53	45 (6.6倍)	-11	56 (8.0倍)
ヘルスケア&マテリアルズ	181	189	8 (+4.2%)	-10	18 (+9.4%)
ドキュメント	149	217	68 (+45.5%)	-16	84 (+56.0%)
全社/連結調整	-83	-80	3	1	2
合計	369	371	2 (+0.7%)	-34	36 (+9.9%)

続いて、セグメント別の状況について説明します。

イメージングソリューション部門は、

カラーペーパーや市場環境が厳しいデジタルカメラの販売減、インスタントフォトシステムで新製品発売前の端境期にあったことなどにより

売上高は、前年比15.1%減の746億円、

営業利益は、前年比63.2%減の45億円となりました。

ヘルスケア&マテリアルズソリューション部門は、

主にグラフィックシステム事業の刷版材料の需要減の影響などにより、

売上高は、前年比3.5%減の2,276億円、

営業利益は、ヘルスケアの収益性の改善により、前年比4.2%増の189億円となりました。

同部門のうち、ヘルスケアは

メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、再生医療事業が伸長し、

売上高は、前年比2.2%増の1,041億円、

営業利益は、対前年6.6倍の53億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、

主に欧米向け輸出の減少などにより

前年比3.3%減の2,331億円、

営業利益は、収益性の改善や構造改革効果により対前年45.5%増の217億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

(単位：億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
746	-133	(-15.1%)	45	-77	(-63.2%)

- ・ フォトイメージングでは、カラーペーパーの販売減に加えて、インスタントフォトシステムで新製品発売前の端境期であったことや米国の一部リテラーで在庫調整が入ったことなどにより売上は減少。2019年6月に発売したハイブリッドインスタントカメラ「instax mini LiPlay」を中心に拡販を図る。
- ・ 電子映像では、市場環境が厳しく、主にミラーレスのエントリーモデルの売上が減少。2019年3月に発売した「FUJIFILM X-T30」や6月に発売した「FUJIFILM GFX100」などのミドル・ハイエンドモデルの販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、主に中国景気の減速による車載用など各種産業用レンズの需要減の影響を受け、売上は減少。プロジェクター「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」やシネマカメラ用ズームレンズ「Premista」シリーズなど、新製品のラインアップ強化により、事業成長を図る。

売上は、インスタントフォトシステムやミラーレスデジタルカメラの販売減の影響などで減収。営業利益は、減収により減益。

5

イメージング ソリューション部門について説明します。

フォトイメージングは、カラーペーパーの販売減少や、インスタントフォトシステムの新製品発売前の端境期、米国の一部リテラーにおける在庫調整などの一時的な影響により、売上は減少しました。今年6月に販売を開始した「instax mini LiPlay (インスタックス ミニ リプレイ)」は、優れた携帯性や写真とともに音声を記録できる「サウンド機能」が好評であり、本製品を中心に拡販を図ります。

電子映像は市場環境が厳しく、主にミラーレスのエントリーモデルの販売減などにより、売上が減少しましたが、今年3月に発売した小型軽量・高性能ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T30(フジフィルム エックス ティーサンジュウ)」や、6月に発売した世界最高1億2百万画素のラージフォーマットセンサーを搭載したミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100(フジフィルム ジーエフエックス ヒャク)」などのミドル・ハイエンドの販売が好調に推移しています。

光学デバイスでは、主に中国景気減速による車載用など各種産業用レンズの需要減などの影響を受けて売上は減少しました。「FUJINONレンズ」の光学技術を結集した「FUJIFILM PROJECTOR Z5000(フジフィルム プロジェクター ゼットゴセン)」発表やラージフォーマットセンサー対応シネマカメラ用ズームレンズ「Premista(プレミスタ)」シリーズなど、新製品のラインアップ強化により事業成長を図っています。

イメージング ソリューション部門は、対前年で売上高は減少、営業利益は減収および新製品の開発費用などにより、減益となりましたが、業績目標の達成に向け、独自技術を駆使した競合優位性の高い製品の提供や効果的なプロモーションの展開により、販売を一層強化していきます。

セグメント別 概況

■ ヘルスケア&マテリアルズ
ソリューション

売上高		対前年度		営業利益		対前年度	
2,276	-83	(-3.5%)	189	8	(+4.2%)	(単位：億円)	

- ・ メディカルシステムは、医療ITや内視鏡などの分野で販売が好調に推移。バイオCDMOは、設備増強によりバイオ医薬品の開発・製造受託が好調に推移。再生医療は、2018年6月に連結子会社化した培地のリーディングカンパニーFUJIFILM Irvine Scientific が寄与し、売上が大幅に増加。
- ・ ディスプレイ材料は、WVフィルムの需要減などの影響で売上が減少したものの、有機EL向けなどの新製品販売が好調に推移。
- ・ 電子材料は先端フォトソ周辺材料などの販売が堅調に推移。
- ・ 記録メディアでは、高容量データストレージ用磁気テープ製品の販売が堅調に推移。
- ・ グラフィックシステムは、刷版材料の需要減により売上は減少。

売上は、全体では減少となるも、バイオCDMO事業、
メディカルシステム事業、再生医療事業がけん引し、ヘルスケアが伸長。
営業利益は、ヘルスケアの収益性改善により増加

続いて、ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、

メディカルシステムは、医療ITや内視鏡などの分野で販売が好調に推移しました。

バイオCDMOは、設備増強によってバイオ医薬品のプロセス開発受託および製造受託が増加しました。尚、8月1日に米バイオ医薬品大手バイオジェン社の製造子会社の連結子会社化を完了しております。

再生医療では、昨年6月に連結子会社化した培地のリーディングカンパニー「FUJIFILM Irvine Scientific(フジフィルム アーバイン サイエンティフィック)」が寄与し、売上が増加しました。

高機能材料のうち、

ディスプレイ材料は、WVフィルムの需要減などの影響を受けて減収となったものの、有機EL向けなどの新製品販売が好調に推移しました。

電子材料は、フォトソ周辺材料などの先端製品を中心に販売が堅調、記録メディアは、高容量データストレージ用磁気テープ製品の販売が増加しました。

グラフィックシステムでは、刷版材料の需要減により売上は減少しました。インクジェットデジタルプレス「Jet Press 750S(ジェット プレス ナナヒャクゴジュウ エス)」など、デジタル化が加速する商業印刷分野に対して今後も画期的な製品を開発・提供し、事業成長を図っていきます。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門は、全体では減収となりましたが、メディカルシステム事業やバイオCDMO事業、再生医療事業などで売上が増加。営業利益は、ヘルスケアの収益性改善などにより増加しました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

		(単位：億円)	
売上高	対前年度	営業利益	対前年度
2,331	-80 (-3.3%)	217	68 (+45.5%)

- オフィスプロダクト分野では、欧米向け輸出が減少したものの、小規模事業所向けカラー複合機「DocuCentre-VI C2264」やセキュリティ機能を強化したカラー複合機「ApeosPort-VII C」シリーズを中心に、国内およびアジア・中国において販売が堅調に推移。
- プロダクションサービスは、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press」の販売が各地域で引き続き好調。
- ソリューション&サービスは、オーストラリアで大型BPO契約を獲得。国内では、オフィスのIT環境の構築、運用などを一括してサポートする役務サービスが伸長し、売上が好調に推移。

欧米向け輸出の減少などにより減収も、
収益性の改善や構造改革の効果により増益

最後に、ドキュメント ソリューション部門について説明します。

オフィスプロダクト&プリンターのオフィスプロダクト分野では、欧米向け輸出が減少したものの、小規模事業所向けカラー複合機やセキュリティ機能を強化したカラー複合機などの販売が、国内およびアジアにおいて堅調に推移しました。

プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse™ Production Press(イリデッセ プロダクション プレス)」の販売が引き続き各地域で好調に推移しました。2019年2月より国内で販売を開始したオフセット印刷の画質に迫る商業印刷向け高速ロール紙カラーインクジェットプリンター「11000 Inkjet Press(イチマンセン インクジェット プレス)」と合わせて、商業印刷市場のデジタル化をさらに拡大します。

ソリューション&サービスは、オーストラリアでの大型BPO(Business Process Outsourcing)契約の獲得や、国内でオフィスのIT環境の設計・導入・運用・管理を一括してサポートする役務サービスの販売が伸長したことにより、売上が好調に推移しました。お客様の業務効率化や生産性向上を支援するサービスを順次提供し、サービス領域での更なる成長を目指します。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、欧米向け輸出の減少などにより減収となりましたが、営業利益は、収益性の改善や構造改革の効果などにより、増益となりました。引き続き、ソリューション&サービス、プロダクションサービスなど成長領域の拡大に努めるとともに、構造改革を進め、収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

(単位：億円)									
	18年 3月期末	19年 3月期末	20年3月期 6月末	対19年 3月期末		18年 3月期末	19年 3月期末	20年3月期 6月末	対19年 3月期末
現金及び現金同等物	7,682	6,547	7,024	477	長短社債及び借入金	4,542	5,241	5,241	0
受取債権	6,191	6,178	5,222	-956	支払債務	2,485	2,384	2,194	-190
棚卸資産	3,613	3,745	3,984	239	その他流動固定負債	4,915	4,073	4,768	695
その他流動資産	1,122	839	1,019	180	負債計	11,942	11,698	12,203	505
流動資産計	18,608	17,309	17,249	-60	株主資本計	20,791	20,370	20,222	-148
有形固定資産	5,375	5,268	5,181	-87	非支配持分	2,196	2,079	2,053	-26
営業権	5,916	6,555	6,457	-98	純資産計	22,987	22,449	22,275	-174
投資有価証券 その他資産	5,030	5,015	5,591	576	負債・純資産 合計	34,929	34,147	34,478	331
固定資産計	16,321	16,838	17,229	391					
資産合計	34,929	34,147	34,478	331					
					(単位：円)				
					期末日 為替レート	18年 3月期末	19年 3月期末	20年3月期 6月末	対19年 3月期末
					米ドル	106	111	108	3円高
					ユーロ	131	125	122	3円高

8

次に、バランスシートについて説明します。

2020年3月期6月末時点の資産合計は、

現金及び現金同等物の増加などにより、2019年3月期末時点と比べ、331億円増の3兆4,478億円となりました。

負債は505億円増の1兆2,203億円、株主資本は148億円減の2兆222億円となりました。

流動比率は1.3ポイント減の245.2%、負債比率は2.9ポイント増の60.3%、株主資本比率は1.0ポイント減の58.7%となりました。

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー（事業買収等除く）

(単位：億円)



	(単位：億円)		
	18年3月期 1Q	19年3月期 1Q	20年3月期 1Q
四半期純利益	476	313	188
減価償却費	307	313	300
受取債権の増(-)減(+)	745	585	859
棚卸資産の増(-)減(+)	-306	-293	-304
営業債務の増(+)-減(-)	-212	-75	-89
その他	-76	27	130
営業活動によるC F	934	870	1,084
設備投資	-134	-148	-185
ソフトウェアの購入	-33	-38	-38
投資有価証券の売却・購入等	-72	-2	-33
事業買収	-1,257	-844	0
その他	13	-32	-35
投資活動によるC F	-1,483	-1,064	-291
フリー・キャッシュ・フロー	-549	-194	793
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー※	780	652	826

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収および有価証券・投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

9

続いて、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,084億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、291億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、826億円の収入となり、前年に対して174億円キャッシュ・フローが増加しました。

2020年3月期 第1四半期 決算説明会

富士ゼロックスにおける構造改革

10

次に、富士ゼロックスにおける構造改革について、進捗をご報告いたします。

富士ゼロックスにおける構造改革

(単位：億円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 計画	2021年3月期 計画	合計
構造改革費用等 一時費用	700	161	100	20	981
効果	0	310	180	60	550

2020年3月期	1Q実績	通期計画
構造改革費用等 一時費用	41	100
効果	83	180

2020年3月期第1四半期の構造改革は
計画通り順調に進捗

2020年3月期第1四半期の構造改革費用等一時費用は41億円、効果は83億円となり、計画通り順調に進捗しています。

本構造改革を確実に実行することで、コスト削減を実現し、市場の変化・競争に耐えうる収益性・生産性を確保しつつ、新たな成長領域へ再投資し、持続的な成長を実現できる事業基盤を確立します。

以上、2020年3月期 第1四半期決算についてご説明いたしました。

2020年3月期 第1四半期 決算説明会

2020年3月期 業績予想

2020年3月期の連結業績予想について説明します。

2020年3月期 連結業績予想 (2019年8月8日時点)

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期 中期経営計画 (VISION2019)	2020年3月期	対前年度	対中期経営計画
売上高	24,315 100%	26,000 100%	24,800 100%	485 +2.0%	-1,200 -4.6%
営業利益	2,098 8.6%	2,300 8.8%	過去 最高 2,400 9.7%	302 +14.4%	100 +4.3%
税金等調整前 当期純利益	2,128 8.8%	-	過去 最高 2,450 9.9%	322 +15.2%	-
当期純利益	1,571 6.5%	-	過去 最高 1,770 7.1%	199 +12.6%	-
当社株主帰属 当期純利益	1,381 5.7%	1,500 5.8%	過去 最高 1,550 6.3%	169 +12.2%	50 +3.3%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	326.81円	-	378.71円	+51.90円	-
ROE	6.7%	7.3%	7.5%	+0.8%	+0.2%
為替 : 米ドル	111円	110円	110円	1円高	-
: ユーロ	128円	120円	125円	3円高	5円安
銀価格 (/kg)	55,000円	62,000円	58,000円	+3,000円	-4,000円

* 2020年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：8億円 ユーロ：8億円

13

2020年3月期の連結業績予想ですが、2019年5月8日に発表しました業績数値・為替前提から変更しておりません。

第1四半期では、計画に対して営業利益が順調に進捗しています。しかしながら、経済環境、為替動向は先行き不透明な状況にあります。それらを注視しつつ、第2四半期以降も通期業績予想達成に向けて、引き続き成長戦略を推進するとともに、さらなる拡販と収益性の改善を強力に進めていきます。

また、冒頭でご説明いたしましたが、本日開催の取締役会において、500億円の自己株式取得を決議致しました。

2020年3月期の配当金は、対前年15円増配の95円を予定しています。

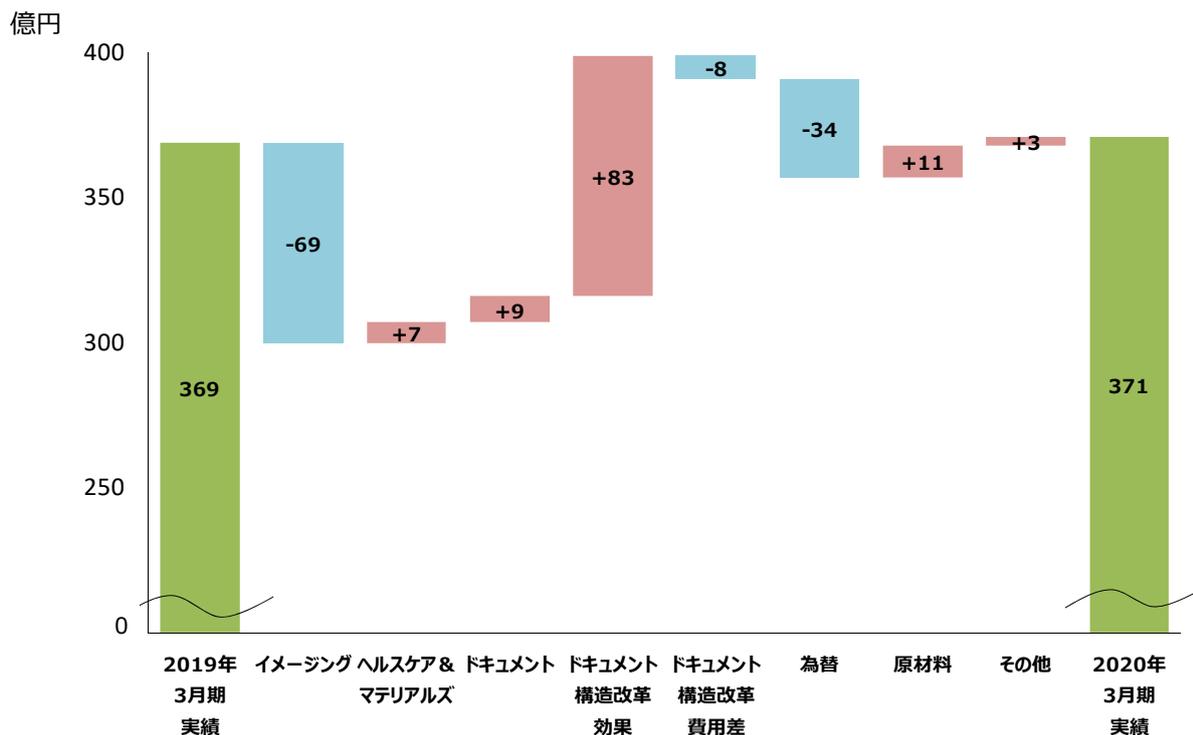
以上、2020年3月期通期業績予想についてご説明いたしました。

2020年3月期 第1四半期 決算説明会

参考資料

2020年3月期 第1四半期 決算説明会 参考資料

営業利益増減分析(対前年1Q実績)



1Q 業績

イメージングソリューション

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	558	469	-89 (-16.0%)	-80 (-14.4%)
電子映像	228	196	-32 (-13.9%)	-25 (-10.8%)
光学デバイス	93	81	-12 (-12.8%)	-11 (-12.0%)
光学・電子映像	321	277	-44 (-13.6%)	-36 (-11.1%)
合計	879	746	-133 (-15.1%)	-116 (-13.2%)

*セグメント間取引消去後

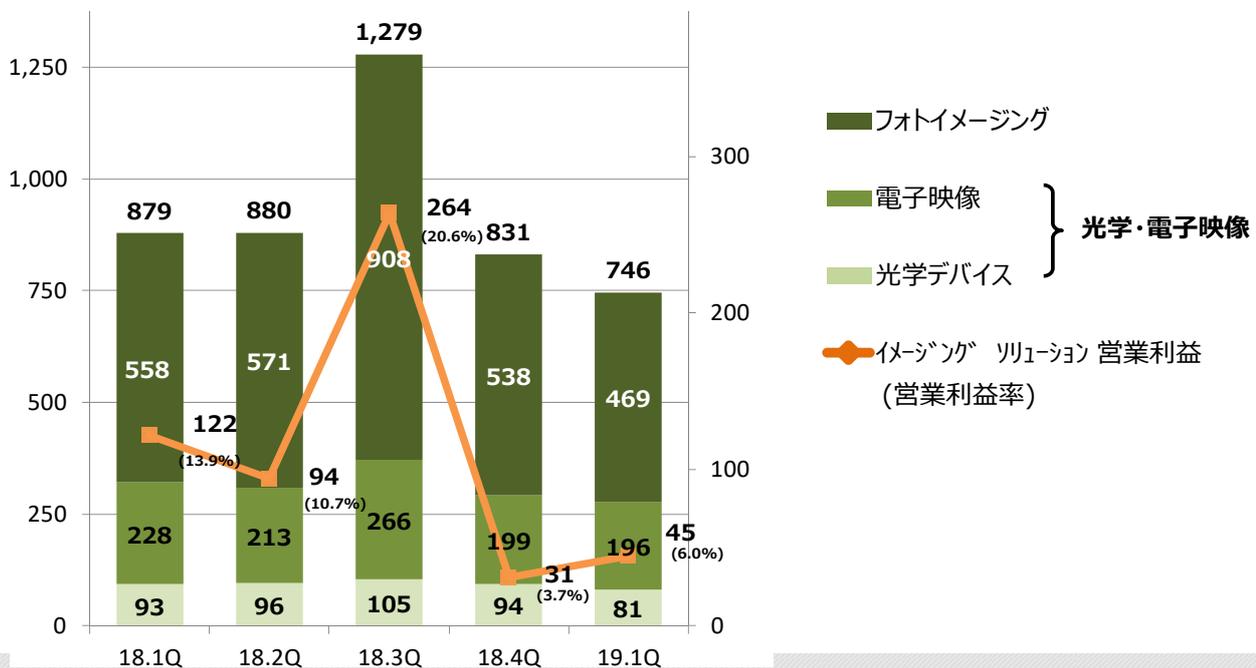
営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
イメージング	122 [13.9%]	45 [6.0%]	-77 (-63.2%)	-68 (-55.8%)

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

イメージングソリューション (単位：億円)

売上高

営業利益



1Q 業績

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

(単位：億円)

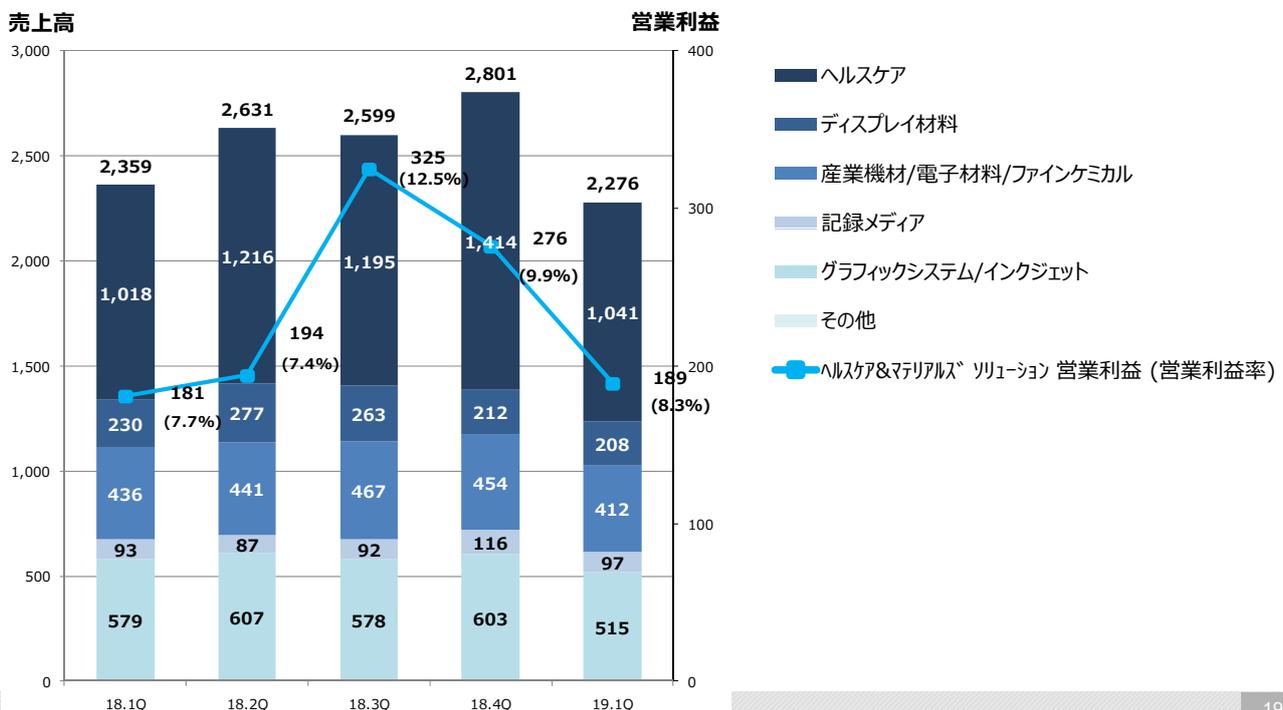
売上高	2019年 3月期	2020年 3月期	1Q	
			対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,018	1,041	23 (+2.2%)	39 (+3.8%)
ディスプレイ材料	230	208	-22 (-9.5%)	-22 (-9.5%)
産業機材/電子材料 ファインケミカル	436	412	-24 (-5.2%)	-22 (-4.7%)
高性能材料	666	620	-46 (-6.7%)	-44 (-6.4%)
記録メディア	93	97	4 (+3.3%)	4 (+3.3%)
グラフィックシステム/インクジェット	579	515	-64 (-11.0%)	-55 (-9.5%)
その他	3	3	0	0
合計	2,359	2,276	-83 (-3.5%)	-56 (-2.4%)

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	2019年 3月期	2020年 3月期	1Q	
			対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	8 [0.8%]	53 [5.1%]	45 (6.6倍)	56 (8.0倍)
ヘルスケア&マテリアルズ	181 [7.7%]	189 [8.3%]	8 (+4.2%)	18 (+9.4%)

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション (単位：億円)



1Q 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	301	288	-13 (-4.3%)	-14 (-4.6%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,397	1,337	-60 (-4.3%)	-48 (-3.4%)
プロダクションサービス	292	273	-19 (-6.5%)	-15 (-5.1%)
ソリューション&サービス	579	625	46 (+8.1%)	56 (+9.7%)
その他	143	96	-47	-45
合計	2,411	2,331	-80 (-3.3%)	-52 (-2.2%)

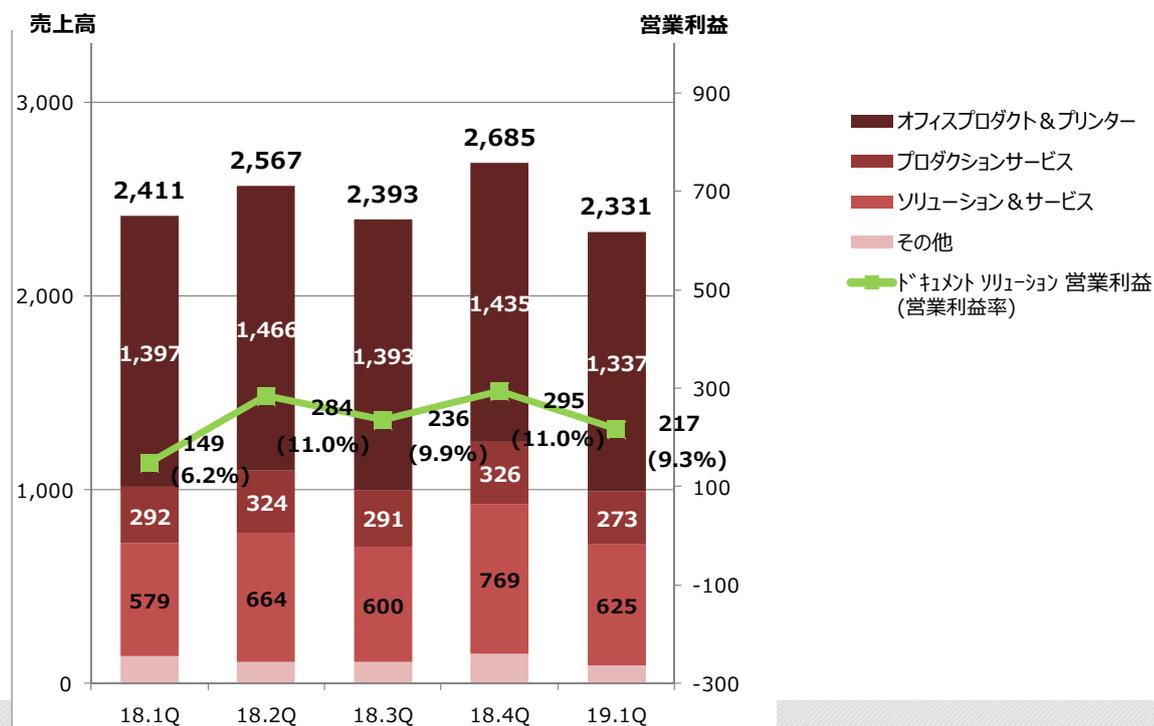
*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	149 [6.2%]	217 [9.3%]	68 (+45.5%)	84 (+56.0%)

20

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメント ソリューション (単位：億円)



21

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

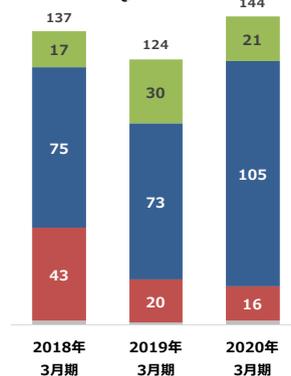
	2019年3月期 1Q		2020年3月期 1Q		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	40.7%	2,299	41.4%	2,214	-85	(-3.7%)
米州	19.0%	1,076	18.5%	992	-84	(-7.7%)
欧州	12.7%	718	12.8%	688	-30	(-4.2%)
内、中国	12.9%	731	12.8%	687	-44	(-5.9%)
アジア他	27.6%	1,556	27.3%	1,459	-97	(-6.2%)
海外	59.3%	3,350	58.6%	3,139	-211	(-6.3%)
合計	100.0%	5,649	100.0%	5,353	-296	(-5.2%)

22

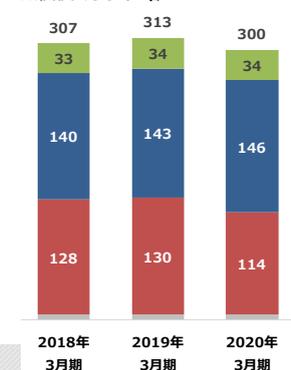
設備投資、減価償却費

(単位：億円)

設備投資 (1Q)



減価償却費 (1Q)



年度	1Q			通期		
	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期 (予想)
イメーシング	17	30	21	94	106	
ヘルスケア&マテリアルズ	75	73	105	427	505	
ドキュメント	43	20	16	138	117	
コーポレート	2	1	2	16	26	
設備投資 ※	137	124	144	675	754	900
イメーシング	33	34	34	133	141	
ヘルスケア&マテリアルズ	140	143	146	575	631	
ドキュメント	128	130	114	547	501	
コーポレート	6	6	6	21	26	
減価償却費	307	313	300	1,276	1,299	1,280
有形固定資産の減価償却費 ※	162	167	163	665	709	

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

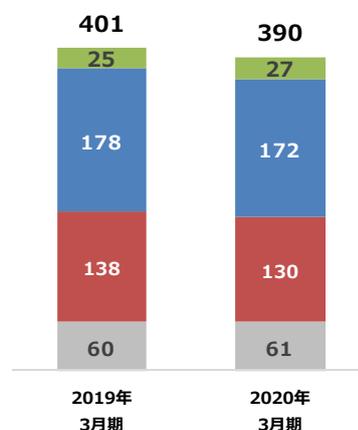
- イメーシングソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

23

研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費 (1Q)

(単位: 億円)



- イメーシングソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

年度	1Q		通期	
	2019年3月期	2020年3月期	2019年3月期	2020年3月期(予想)
イメーシング	25	27	99	
ヘルスケア&マテリアルズ	178	172	698	
ドキュメント	138	130	512	
コーポレート	60	61	252	
研究開発費	401	390	1,561	1,550
<売上高比>	7.1%	7.3%	6.4%	6.3%
販売費及び一般管理費	1,587	1,523	6,316	
<売上高比>	28.1%	28.4%	26.0%	

24

為替、原材料価格、人員

為替

(単位: 円)

	2019年3月期					2020年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
米ドル	109	111	113	110	111	110	110
ユーロ	130	130	129	125	128	123	125

原材料価格 (平均)

(単位: 千円/kg)

	2019年3月期					2020年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
銀	58	54	53	55	55	53	58

人員

(単位: 人)

	2018.6末	2018.9末	2018.12末	2019.3末	2019.6末
連結	77,060	75,329	74,425	72,332	72,358

25

2020年3月期 連結業績予想 (2019年8月8日時点)

(単位：億円)

	2020年3月期 上期	2020年3月期 下期	2020年3月期
売上高	11,700 100%	13,100 100%	24,800 100%
営業利益	930 7.9%	1,470 11.2%	2,400 9.7%
税金等調整前 当期純利益	950 8.1%	1,500 11.5%	2,450 9.9%
当社株主帰属 当期純利益	580 5.0%	970 7.4%	1,550 6.3%

26

2020年3月期 セグメント別業績予想 (2019年8月8日時点)

(単位：億円)

売上高	2019年 3月期	2020年3月期 中期経営計画 (VISION2019)	2020年 3月期	対前年度	対中期経営計画
イメージング	3,869	3,800	4,000	131 (+3.4%)	200
ヘルスケア	4,843	5,000	5,100	257 (+5.3%)	100
マテリアルズ	5,547	6,200	5,600	53 (+1.0%)	-600
ヘルスケア&マテリアルズ	10,390	11,200	10,700	310 (+3.0%)	-500
ドキュメント	10,056	11,000	10,100	44 (+0.4%)	-900
合計	24,315	26,000	24,800	485 (+2.0%)	-1,200

*セグメント間取引消去後

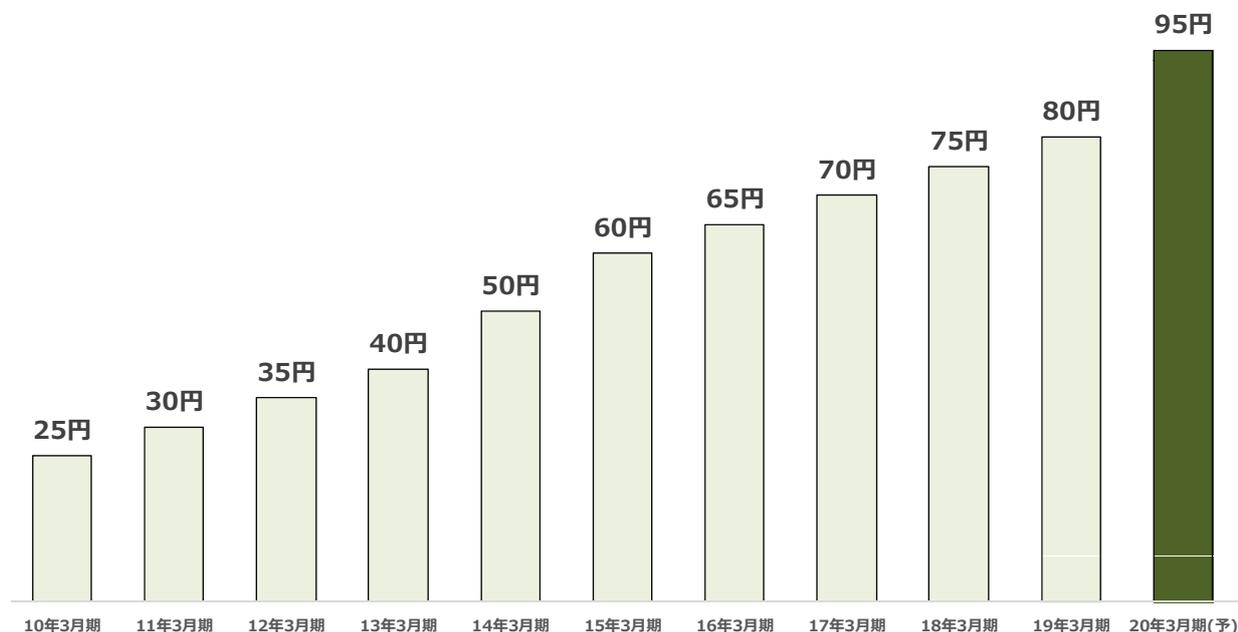
営業利益	2019年 3月期	2020年3月期 中期経営計画 (VISION2019)	2020年 3月期	対前年度	対中期経営計画
イメージング	511	450	530	19 (+3.7%)	80
ヘルスケア	333	400	440	107 (+32.1%)	40
マテリアルズ	643	850	650	7 (+1.1%)	-200
ヘルスケア&マテリアルズ	976	1,250	1,090	114 (+11.7%)	-160
ドキュメント	964	950	1,190	226 (+23.4%)	240
全社/連結調整	-353	-350	-410	-57	-60
合計	2,098	2,300	2,400	302 (+14.4%)	100

27

株主還元

■ 配当金

2020年3月期の配当金は、10期連続増配となる対前年15円増配の95円/株を予定



パイプライン (2019年8月8日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph III
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph II
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I / II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリポソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス 統合報告書2018

https://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_library/integrated_reports/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2018年 3月 イメージングソリューション事業説明会
- 2019年 1月 医薬品・バイオCDMO・再生医療事業説明会
- 2019年 2月 ESG説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>